

「感染の再拡大防止に向けて（道案）」等に対する主な意見

1 有識者・専門家等の意見

1-①

現状を踏まえると延長はやむを得ない。ただし、期間が長いと日常生活や経済にも支障が出る上、危機感も薄れて実効性も下がる。4週間ありきではなく、毎週のモニタリングを踏まえ、感染状況が解除基準を下回れば早期の解除も検討すべき。感染状況が改善しない場合には、短期間で対象を限定したアラームの強い措置についても検討すべき。病床確保の努力も続けるべき。

1-②

現在の感染状況を踏まえると、対策の延長は仕方がない。感染状況が改善したら解除を検討すべき。

1-③

対策の延長は、やむを得ない。今回の対策は単なる期間延長ではなく、他府県の感染拡大や変異株の感染増加の現状などをしっかりと情報発信し、改めて道民に対して行動変容を強く呼びかけて欲しい。なお、ワクチンについては全道一律で接種が進む訳ではなく、配給状況や医療従事者との調整など、町村ごとの事情に応じて接種を進めている状況であることを、道からも広く情報発信して欲しい。

1-④

大変工夫されている。テレビのニュースを見ない若者たちにどう浸透させるかが問題であるが、学内メーリングリストは有効。ゴールデンウィークを見越した協力要請は、道民・札幌市民に覚悟を促すものであり、特に病床数が減少しない北海道にあっては、必要なことである。大阪府のようにならないよう、コロナ疲れ、コロナ慣れを払拭するような、効果的な注意喚起をお願い。

1-⑤

対策の延長は、やむを得ない。

1-⑥

札幌市内の感染状況から延長は必要でありやむを得ない。

1-⑦

大型連休を控えて早めに注意喚起することは必要。道の施策に異論はない。特に、ワクチン接種が始まり、市民の期待感が高まっているのでこの時期に効果的に強い措置を札幌をターゲットに講じるべき。それが全道に対する警告につながる。保健所・病院機能の維持のためにも北海道のリーダーシップを期待。

1-⑧

今回の札幌の感染は冬に比べて新規感染者数が少ないにも拘らず、入院、重症者とも冬の第三波に匹敵。入院については変異株に関する陽性者を全て入院とする方針の影響をうけていると考えられ、重症者の数が第三波のピークを超えていることは異常。しかも重症者数の増加のスピードも第三波に比べるとかなり急峻。このことを最近の感染状況等について①の医療提供体制の記載の中で指摘した方が良い。札幌の感染状況を現段階で強く抑制する必要

があり、これを怠れば第二の大阪にすくなる。

1-⑨

道案に対し異論はない。変異株による感染が主流になりつつあり、今までに比べ集団感染の規模も大きくなっている。特に長時間、大人数が集まる場においての注意喚起が必要。

1-⑩

感染拡大再防止策のスライド3枚目3つの場面を具体的な表現にするとより行動に移しやすい。

1-⑪

案について問題無い。道民にアピールすることは大事だが、札幌市民に特に強いアピールをしないと意味がない。市長を中心に市民に強いアピールをお願いしたい。

1-⑫

高齢者に接種する側の医療機関の方々のワクチン接種が進んでいる市町村もあるが、進んでいない市町村もあることからワクチン接種の円滑で迅速な実施を進めてほしい。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

感染の再拡大防止に向けての8ページに、ワクチン接種体制の構築等について記載があるが、北海道におけるワクチン副反応専門医療機関の確保について、具体的にスケジュール等を示してほしい

2-②

高齢者全員分のワクチンがいつ支給されるのかスケジュールを早急に示していただきたい

2-③

首都圏や札幌市の往来自粛により観光業が疲弊している。新しい旅のスタイルのような観光事業向けの対策や観光事業者に対する直接的な支援をお願いしたい。

2-④

札幌市を中心として変異ウイルスに対応した早期に検査できる体制の強化を図る事で、道内の感染状況の把握ができ、早期の感染症対策に取り組むことに繋がる。また、道内市町村へのワクチンの配布が遅れる傾向が見受けられることから、感染拡大防止はもとより、住民の不安解消のためにも、ワクチンが安定的に供給されるよう国と連携して進めていただきたい。

2-⑤

感染の再拡大防止に向けては、感染経路不明の分析を行った上で、効果的な対策を講じることが必要と考える。このため、対策として感染を防ぐ行動の徹底・定着を進めていくことは理解するが、単にこれまでの取組を延長するのではなく、職場内での行動のポイントとしているテレワークや時差出勤については、数値目標などを設定し、取組を進める必要があり、併せてそのための支援策の充実を求める。

2-⑥

札幌市の感染者数が増加し、中でも変異株における感染者数が増えている状況に加えて、全国的な感染拡大の後に道内に感染が波及してくることを考えると、札幌市内における外出自粛要請・札幌市との往来自粛要請を5月14日まで延長することは妥当。

2-⑦

感染が拡大し、北海道がまん延防止等重点措置の対象となると、北海道経済や道民生活への影響はさらに大きくなることから、札幌市長と連携の上、札幌市民をはじめとする道民や事業者が今一度感染防止に対する緊張感を高め、感染防止対策に前向きに取り組んでいただけるようなメッセージの発信をお願い。

2-⑧

ゴールデンウィークを迎える中、まん延防止等重点措置の対象となる地域や外出自粛などの行動制限が要請されている地域との不要不急の往来自粛要請について、対象都府県名とともに道民に今一度周知徹底していただき、感染が拡大傾向にある他都府県との移動によって北海道の感染が拡大するリスクを抑制していただきたい。

2-⑨

5月14日までの札幌市内における協力要請の期間中であっても、札幌市において感染が減少し道の警戒ステージ3相当以下という目標を達成した場合には、要請を解除していただきたい。

2-⑩

市町村のワクチン接種に対して万全の支援を行っていただき、情報提供を含めて可能な限り迅速に接種が行き渡るようお願いしたい。

2-⑪

当会としても引き続き、まん延防止等重点措置の対象となる地域や外出自粛などの行動制限が要請されている地域との不要不急の往来を控えることや、新北海道スタイルの徹底などについて会員企業に周知し、感染拡大防止に取り組んでいく。

2-⑫

北海道は影響が全国で最も長期間に及んでいる。宿泊・観光・交通・飲食事業者を中心に、その取引先も含めて、経済活動はかつてないほど深刻なダメージを受けている。雇用維持及び事業継続に引き続き支援をいただきたい。

2-⑬

まん延防止等重点措置の対象となる地域、外出自粛などの行動制限が要請されている地域との不要不急の往来自粛要請が発動されている中においては、先般スタートした新しい旅のスタイルは観光業を中心とした経済支援策として、その効果が期待される事業となる。道民に対して、黙食や黙浴をはじめとする新しい旅のスタイルをしっかりと伝えることとあわせ、この事業を積極的に活用し、マイクロツーリズムを楽しんでいただくようメッセージを発信し、感染防止、観光需要喚起の両面から、事業の実効性向上を図っていただきたい。

2-⑭

札幌を抑えなければ、道が目標としている道の警戒ステージ2以下の達成は困難。札幌市民へのより一層の危機意識の醸成、感染しているケースを徹底的に分析し、そのケースを1つ1つ根気強く潰していかなければならない。蓄積された科学的知見を活かしたP-

D-C-Aサイクルの見える化を推し進め、マンネリ化を排していくことが肝要。主体的な行動を促すよう、一層丁寧な情報発信、周知に努められたい。

2-⑮

医療機関や福祉施設でのクラスターが断続的に発生していることから、道による感染防止対策のより一層の支援を求めたい。

2-⑯

現在のところ、檜山、日高、留萌、宗谷、オホーツク、釧路、根室はステージ1、十勝はステージ2の状況にあり、感染は落ち着いていることから、この地域に対しては、感染防止対策を緩めない前提で、新しい旅のスタイルでの圏域間の移動を解除するなど、着実に社会経済活動を押し進めていくべき。

2-⑰

感染状況のモニタリングを強化し、その情報を道民と共有した上で、北海道スタイルの定着、感染しているケースの撲滅、クラスター対策に加え、感染が落ち着いている地域の社会経済活動推進など、メリハリの効いた対策をお願いしたい。

2-⑱

予兆に対する迅速な対応については、専門家の意見も踏まえ、時期を失することなく適切な対応を。「まん延防止等重点措置」の検討も含めて、どのような状況になったら、どう行動するのか明確にしておくべき。

2-⑲

飲食あるいは会食時の感染リスクが非常に高いとしており、その対策は引き続き徹底すべき。一方で、移動自体の感染リスクが高いとの挙証はなく、移動する行為自体はリスクが低いことと移動先での過ごし方によってはリスクが高まることを明確に分けた上で、各々に対策を策定し、的確な情報発信をすべきと考える。この度の道案は、札幌市内における外出自粛及び札幌市との往来自粛のみを引き続き求めることとしているが、当該措置は既に長期に亘り継続されており、公共交通における減収は膨大な金額となっていることから、ゴールデンウィークの移動需要を取り込めないことは、致命的な影響となることが強く危惧される。飲食に対する更なる徹底した対策を併せて実施することにより、一日でも早く外出・移動の自粛措置が解除されるよう、対策を再考されるとともに、損失に対する支援措置の実施を強く求める。